



10 読谷飛行場返還の碑

碑は8基からなり、テーマごとに日本軍、米軍による飛行場接收から返還への道のり、度重なる基地被害、土地返還の抗議行動の歴史、軍事演習への抗議、飛行場を村の中心地へと変貌させた跡地利用計画の歴史などが記されている。

住所：読谷村座喜味
お問合せ先：読谷村役場企画政策課
TEL：098-982-9205

GOAL!



12 「艦砲め喰え残さー」歌碑

読谷村楚辺出身の比嘉恒敏氏が戦中、戦後の苦難と犠牲者への哀悼への思いを込めた民謡「艦砲め喰え残さー」（艦砲射撃の喰い残し）の歌碑。歌詞には平和を願う心情がつづられ、「恨でいん 悔やでいん あきじゃらん 子孫末代 遺言さな」（恨んでも 悔やんでも まだ足りない 子孫末代に 遺言しよう）と結ばれる。楚辺は米軍上陸地の一つであり、歌碑広場から、日本軍による陣地壕跡、米軍基地トリイ通信施設に接收された楚辺の旧集落が望める。

住所：読谷村字楚辺1928-1
お問い合わせ先：楚辺公民館（読谷村楚辺1928-1）
TEL：098-956-2326



11 不戦宣言の碑

読谷村遺族会、老人クラブ連合会、婦人会、議会、青年団協議会、児童生徒一同による不戦を誓った宣言が刻まれており、多くの人命が奪われた沖縄戦の経験から二度と戦争を繰り返さないことを決意表明し、日本国憲法の平和主義や非核三原則の遵守を訴えている

住所：読谷村座喜味
お問合せ先：読谷村役場企画政策課
TEL：098-982-9205



村南側から北側を望む航空写真。村中央部の飛行場跡地、トリイ通信施設以外に住宅地が密集。1972年日本復帰時約70%の村土が米軍基地用地として接收されていたが、2022年現在は約36%に減じている。しかし現在もトリイ通信施設のほか国道58号より東側一帯の多くが嘉手納弾薬庫として接收されたままである。

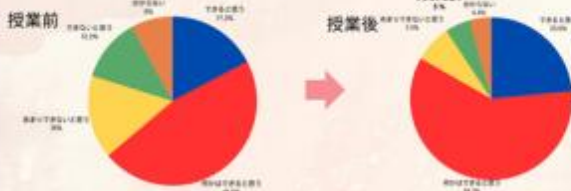


次世代継承ワークショップ

沖縄平和啓発プロモーション事業「御万人びーすふるアクション」平和学習ワークショップは、戦後78年以上が経過し、戦争を知らない世代が県民の大半を占める中、これまでに蓄積された沖縄戦関係資料や戦争体験者の証言を活用し、「戦争の悲惨さ」や「平和の大切さ」について学び、沖縄戦の歴史的教訓を次世代を担う若者へと継承することを目的として、県内外で実施するものです。

授業後の変化

あなたは世界を変えることができると思いますか？



沖縄県外でのワークショップ

近江八幡市立武佐小学校

沖縄戦(読谷村)を学ぶ
ガマのワークショップ
実施日: 2023年9月21日
対象: 小学校5年生
人数: 29名



戦争は、あかんことか、沖縄戦のこともちっと色んな人に広めて「こうゆうことがあったんやぞ」って言って、戦争をなくしていきたいです。(武佐小学校5年生)

大阪市立大領中学校

ガマのワークショップと
比嘉哲哉さんの人生
実施日: 2023年9月22日
対象: 中学3年生
人数: 85名



比嘉さんが作った歌にすべてが込められているなとも思いました。これからはこの学びを次の人たちに私たちが伝えていく善なのでしっかり学んだことを見ておきたいです。(大領中学校3年生)

近江八幡市立老蘇小学校

沖縄戦(読谷村)を学ぶ
ガマのワークショップ
実施日: 2023年9月21日
対象: 小学校6年生
人数: 28名



自分たちがどういふ未来にして、そのためにどういふ行動を取るかを考えるのが大切だと思った。(老蘇小学校6年生)

国立大学法人 東京大学

沖縄戦(読谷村)を学ぶ
ガマのワークショップ
実施日: 2023年11月18日
対象: 大学生一般
人数: 47名



「艦砲め喰え残さー」は明るいメロディラインとは異様に原因には戦争の残した傷が感じられた。あえて叫び言葉にしないことで人の気持ちも鼓舞するし、より長く沖縄で起こった悲劇が継承されるのではないかと感じた。(東京大学生)

出前授業

パネル展内容

- ①事業の趣旨
- ②事業のコンセプト
- ③次世代ワークショップ
- ④「艦砲め喰え残さー」教材紹介
- ⑤平和朗読講習会
- ⑥命の対話「あなたの平和」メッセージを集めるコーナー設置

場所のスペースにより、上記のパネルを選定し、設置を行った。

沖縄県内でのワークショップ

豊見城市立伊良波中学校

沖縄戦(読谷村)を学ぶ
ガマのワークショップ
実施日: 2023年6月15日
対象: 中学1年生
人数: 299名



僕は実際にどんな事があったのかを調べてその時の状況をよんで僕は戦争を体験しましたと語れるくらい知りたいです。(伊良波中学校1年生)

国立大学法人 琉球大学

沖縄戦(読谷村)を学ぶ
ガマのワークショップ
実施日: 2023年11月14日
対象: 大学1年生-大学院生
人数: 26名



戦争を体験した人が少なくなっている中、私たちが平和の意志を受け継ぎ、絶対に戦争はいけないということを次の世代に伝えていきたい。(琉球大学生)

南風原町立南風原中学校

世界のウチナンチュと平塚一海から語ってきたー
実施日: 2023年9月15日
対象: 中学1年生
人数: 31名



今回の授業を通して、戦争時のことではなく、戦後にどのようなことがあり今に繋がっているのかを知ることが大切だと思いました。(南風原中学校1年生)

沖縄県立治高等学校

沖縄戦(読谷村)を学ぶ
ガマのワークショップ
実施日: 2023年11月26日
対象: 高校1-3年生
人数: 11名



怖いと思うけど今まで沖縄戦の悲惨さに目を背けていたところもありましたがもっと沖縄戦を知って子供たちの未来を守れるように伝えて行きたい。

北谷町立桑江中学校

沖縄戦(読谷村)を学ぶ
ガマのワークショップ
実施日: 2023年10月24日
対象: 中学3年生
人数: 129名



どれだけ勉強してもそれを体験した人たちの悔しさや悲しさは完璧には理解することはできないと思うけど、もっと知って後悔に繋がらないでほしいと感じた。(桑江中学校3年生)

学校法人カトリック学園 海星小学校(石垣市)

沖縄戦(読谷村)を学ぶ
ガマのワークショップ
実施日: 2023年11月30日
対象: 小学校5-6年生
人数: 28名



昔は相手を知りたっていたりするのがどんな気持ちで殺しているのか本気はやりたくないけれどやっている人の気持ちも考えたら今の日本はどんなに平和なのか、考えたら悲しくなってくる。(海星小学校5年生)

豊見城市立豊見城中学校

沖縄戦(読谷村)を学ぶ
ガマのワークショップ
実施日: 2023年10月27日
対象: 中学3年生
人数: 280名



今生きていることは、絶対誰かのおかげなので私も誰かの役に立つことをしていきたいです。(豊見城中学校3年生)



沖縄平和啓発プロモーション事業
「御万人びーすふるアクション」



2023年度 平和啓発プロモーション事業 活動紹介

2023.09.24
開催報告

平和教育指導者養成講座 -朗読編-

平和朗読講習会



2023年9月24日(日) 沖縄県平和祈念資料館(糸満市)にて「平和朗読講習会」を実施しました。

琉球放送(RBC)アナウンサーの仲村美奈さん、田久保倫さんを講師にむかえ、平和学習の新しい手法として「朗読」を学ぶ企画です。

約50人の参加者が集まり、発声練習やリサーチ方法など朗読の基礎を学んだあと、参加者自身で朗読を通して平和を伝えるプランを考えていただき、色々なアイデアを共有しました。

参加者からの感想

朗読の仕方を学べたり、他の参加者と話し合っ
て様々な考えを聞いたのが良かったと思いま
す。(10代)

取材をしただけで、理解を深めること、そして相
手におかしくやく伝える方法を提案すること
が、平和学習の効果的手法であるということ。
(20代)

参加者皆さんの思いや視点の違いで、たくさんの
作品に触れることができ非常に勉強になりました。
伝える技術と考え続けること。講師の美奈さん
が教えて下さったことを実践していきたいです。
(40代)

朗読が実践されている朗読会がごくいい企画だと
思いました。戦争体験がなくとも語り伝えるこ
とができること知りました。(60代)





平和朗読講習会パネル



左：川崎シンポジウム 展示風景

右：第32軍司令部壕 教材作成 フィールドワーク 展示風景



上：JICA国際協力・交流フェスティバル 展示風景
下：まなびフェスタ読谷



参加者の声

平和であることがどんなに大事な事であるかしみじみ感じました。

自分のクラスでの出前授業の様子がまとめられていて嬉しかった。

子どもたちと一緒に楽しみながら参加できてよかった

風船につられて子どもと来ました。思わず沖縄県の取り組みを知れてよかったです。

届いた世界の支援 豊見城中で出前授業

市立豊見城中学校（島袋篤校長）の3年世界のウチナンチュ（県系人）を通して10月27日、同校で実施された。沖縄の広がる県系人のネットワーク、戦後に沖縄を越えた支援があったことなどが伝えられ「人とのつながりが平和をつくるのでは」と関心を持っていきたいなど感想を語った。



平和を考える授業で世界のウチナンチュについて学ぶ生徒ら＝10月27日、豊見城市立豊見城中学校

系人から平和学ぶ

する「う するよう求めた。 直美さん 生徒たちはハワイの県系人が さんは「戦 戦後、沖縄に豚を送った話に驚 後、沖縄に豚を送った話に驚 いていっ いた様子だった。大城希愛さん てることを考 (14)は「世界からの支援を知り、 ことを考 沖繩からも世界を支援したいと 考えた。生 思った」と話した。 思った。生 系講愛莉さん(15)は「いまま



救った「ハワイの豚」

原中 移民史や平和学ぶ

【南風原】南風原中学校で9月15日、「世界のウチナンチュと平和」をテーマにしたワークショップがあった。県の沖縄平和啓発プロモーション事業の一環。うなあ沖繩の玉城直美さんを講師に迎え、1年6組の生徒約30人が沖繩移民の歴史や平和について考えた。生徒たちはグループに分かれ、沖繩移民に関するクイズを解いたり戦後に撮影された沖繩とハワイの写真

た歴史を紹介。「今は当り前のようにいる豚だが移民したウチナンチュ募金を集めて送ってくれた歴史があって、戦後の沖繩の人たちは生き延びることができた」と説明した。

新崎結利葵さんは「戦後の中のことだけでなく、その後どのようにして今に至るのかを学ぶことは大切だと思った。世界にたくさのウチナンチュがいることを誇りに思った」。富武琉さんは「ハワイなど

沖縄と長野 平和へ語る

高校・大学生、オンライン交流



沖縄と長野の大学生、高校生がオンラインで交流す

る県主催の「ゆんたく会」が4日、開催された。沖縄から10人、長野から6人の計16人が参加。それぞれの県で行われている平和教育や戦争の記憶を伝える取り組みを共有し、継承の方法を考えた。

名桜大1年の村井愛深さんはサークルで週替り集まることに取り組んでいることを紹介した。

後半はグループに分かれて「次世代に平和を継承するには」などのテーマで意見交換。参加者からは「若者から若者に伝えていくことや自分事として考えることが大事」「インプットだけでなくアウトプットも大切」といった意見が出たほか「他地域との交流を通して自分の考えを深めることができるのでは」との声が上がった。

平和継承に向けて、実践している取り組みや思いを共有した沖縄、長野の大学生や高校生ら。4日（親子とも生活福祉部女性力・平和推進員担任）

さん、喜屋武来彩さん、伊吉来夢さんは学校のある八重瀬町の沖繩戦やひめゆり学徒隊について本や資料館で学び、同世代に伝えていくことを報告した。

長野大学の学生は、疎開や空襲を経験した戦争体験者への聞き取りや地域の戦跡調査を行っていることを紹介した。

お任せします

届いた世界の支援 豊見城中で出前授業

豊見城市立豊見城中学校（島袋篤校長）の3年世界のウチナンチュ（県系人）を通して10月27日、同校で実施された。沖縄の広がる県系人のネットワーク、戦後に沖縄を越えた支援があったことなどが伝えられ「人とのつながりが平和をつくるのでは」など感想を語った。



平和を考える授業で世界のウチナンチュについて学ぶ生徒ら＝10月27日、豊見城市立豊見城中学校

系人から平和学ぶ

「うさぎ」の直美さんは「戦時中、父が戦死した。戦後、父の遺骨が戻ってきた。大城希愛さん(14)は「世界からの支援を知り、沖縄からも世界を支援したいと思った」と話した。系講愛莉さん(15)は「いまま

するよう求めた。生徒たちはハワイの県系人が戦後、沖縄に豚を送った話に驚いた様子だった。大城希愛さん(14)は「世界からの支援を知り、沖縄からも世界を支援したいと思った」と話した。系講愛莉さん(15)は「いまま



救った「ハワイの豚」

原中 移民史や平和学ぶ

【南風原】南風原中学校で9月15日、「世界のウチナンチュと平和」をテーマにしたワークショップがあった。県の沖縄平和啓発プロモーション事業の一環。うなあ沖縄の玉城直美さんを講師に迎え、1年6組の生徒約30人が沖縄移民の歴史や平和について考えた。生徒たちはグループに分かれ、沖縄移民に関するクイズを解いたり戦後に撮影された沖縄とハワイの写真

「名大1年の村井愛深さんはサークルで週刊収集などに取り組んでいることを紹介した。」

沖縄と長野の大学生、高校生がオンラインで交流する

沖縄と長野 平和へ語る

高校・大学生、オンライン交流



後半はグループに分かれて「次世代に平和を継承するには」などのテーマで意見交換。参加者からは「若者から若者に伝えていくことや自分事として考えることが大事」「インプットだけでなくアウトプットも大切」といった意見が出たほか「他地域との交流を通じて自分の考えを深めることができるのでは」との声が上がった。

新聞 ○○回 (沖縄タイムス6回、琉球新報2回、朝日新聞、毎日新聞、信濃毎日新聞1回)

テレビNews (RBC,QAB、NHK沖縄、ラジオ (RBCiラジオ))

2023/6/15	沖縄戦の2つのガマを題材 中学校で平和学習 豊見城	出前授業	テレビ	NHK
2023/6/23	沖縄戦から78年『慰霊の日』証言アーカイブの活用は	出前授業	テレビ	NHK
2023/7/8	平和学習の参考に 教員が沖縄戦跡見て回るフィールドワーク	指導者養成講座	テレビ	NHK
2023/7/17	〔戦後78年〕沖縄戦の教材作り考える 戦跡管理や史実継承探る 教員ら15人 歩いて読谷巡り	指導者養成講座	新聞	沖縄タイムス
2023/9/16	朗読で沖縄戦継承／講習参加者を募集	朗読会	新聞	琉球新報
2023/9/24	RBCアナから平和朗読を学ぶ 24日講習会	朗読会	新聞	沖縄タイムス
2023/10/9	『朗読』で伝える沖縄戦／糸満で指導者養成講座／平和継承考える	朗読会	新聞	沖縄タイムス
2023/10/14	沖縄救った『ハワイの豚』 南風原中移民史や平和学ぶ	出前授業	新聞	沖縄タイムス
2023/10/31	沖縄戦伝える担い手に 県講座 高校生ら参加 写真やイラスト使用 自らの言葉で	高校生国際平和ワークショップ	新聞	沖縄タイムス
2023/11/4	沖縄と長野 平和八語る 高校・大学生、オンライン交流	長野交流	新聞	沖縄タイムス
2023/11/5	長野と沖縄の学生らオンライン交流 戦争・平和人、ごとでない 終戦の意識に違いも /長野	長野交流	新聞	毎日新聞
2023/11/5	戦争の記憶どう継承 若者の役割は 長野大と沖縄の学生ら意見交換	長野交流	新聞	信濃毎日新聞
2023/11/5	戦後届いた世界の支援／豊見城中で出前授業	出前授業	新聞	琉球新報
2023/11/8	沖縄の復興、考える催し／18日、東大駒場で	出前授業	新聞	朝日新聞
2023/11/14	ガマでの出来事を疑似体験 中学校で出前授業	出前授業	テレビ	QAB
2023/11/15	沖縄戦学び平和考える 北谷・桑江中でワークショップ	出前授業	新聞	琉球新報
2023/12/1	集団自決のガマ追体験 児童ら、沖縄戦の避難シミュレーション	出前授業	新聞	八重山毎日新聞
2023/12/4	平和への思い 沖縄県伝える 来月28日、JR川崎駅前のチッタで催し コンサートやひめゆり資料館長らシンポ	シンポジウム	新聞	東京新聞
2024/1/13	沖縄・石垣島の小学生が沖縄戦の集団自決を追体験	出前授業	テレビ	QAB
2024/1/29	沖縄を思い平和語る ゆかりの3人、川崎でシンポ /神奈川	シンポジウム	新聞	毎日新聞
2024/2/2	平和願う『沖縄のこころ』共有 県出身者ら 川崎から発信	シンポジウム	新聞	沖縄タイムス
2024/2/6	『18年生きればいい、思考する事は許されない』 高校生らが元鉄血勤皇隊の男性を取材 戦争の記憶を次世代へ	瀬名波榮喜先生	テレビ	RBC
2024/2/6	高校生と大学生が95歳の戦争体験者にインタビュー 那覇	瀬名波榮喜先生	テレビ	NHK
2024/2/6	新たな継承の形を模索 学生が戦争体験者にインタビュー	瀬名波榮喜先生	テレビ	QAB
2024/2/6	軍事教練を断れなかったのはなぜ? 95歳の沖縄戦語り部に質問次々 次世代継承ワークショップ 学生が取材して記事化	瀬名波榮喜先生	新聞	沖縄タイムス
2024/2/11	首里城の地下にある第32軍司令部壕 教材化へフィールドワーク 教育関係者らアイデア論議	第32軍司令部壕	新聞	沖縄タイムス
2024/2/19	沖縄戦体験 記事化学ぶ 次世代継承事業で高校・大学生 「伝える責任 重さ感じた」	瀬名波榮喜先生	新聞	沖縄タイムス
2024/2/19	沖縄戦の体験者の声を伝える 若者たちがインタビューし記事に	瀬名波榮喜先生	テレビ	NHK

協力団体・学校

沖縄県内 21団体、県外9団体 県人会、行政、NPO

30団体

(一財)沖縄川崎県人会／沖縄東京事務所／ラ チッタデッラ／読谷村史編集室

読谷村文化センター／楚辺自治会／JICA沖縄センター／第32軍司令部壕の保存・公開を求める会

ひめゆり平和祈念資料館／長野県／長野大学／桜風エイサー／関東学院大学 藤浪ゼミ

琉球大学 喜納ゼミ／山里ゼミ／琉球放送／沖縄タイムス社／名桜大学 小川ゼミ／(一社)沖縄県女性の翼

(認定) 特定非営利活動法人 ジャパンハート／NPO法人メッシュ・サポート／おやじバンド GENNO65

佐喜真美術館／向陽高校／南風原平和ガイドの会／でいご娘／鹿児島県宇検村／沖縄県立平和祈念資料館

南風原中学校 美術科／石垣市教育委員会

沖縄平和啓発プロモーション 事業デジタルにみるアーカイブ



事業HP



URL

事業詳細版報告書サイト情報
(同報告書)



事業内容を詳しく
ご覧になりたい方は上のHP
サイトや報告書を
ご覧ください。



左記、QRコードより
ご視聴頂けます。
期限：2025(令和6)年
3月末まで

2024年1月28日、神奈川県川崎市
ラチッタデッラで開催されました
平和啓発シンポジウム(詳細〇～〇頁)
をご覧になりたい方はアーカイブ映像を
ご覧ください。

アーカイブ映像

沖縄平和啓発プロモーション事業に関して

令和5年度沖縄平和啓発プロモーション事業では、これまでに蓄積された沖縄戦体験談や資料を活用して、沖縄戦の実相や歴史的教訓を正しく次世代に継承し、平和を希求する「沖縄のこころ」を広く伝えるため、県内外で児童生徒等を対象としたワークショップや神奈川県でのシンポジウム、平和教育指導者養成講座などを実施しました。

今後とも、平和を希求する「沖縄のこころ」が県内外、さらに世界中に伝わり、恒久平和の実現に寄与することを目指してまいりますので、引き続き、沖縄県の平和行政の取組に対するご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

子ども生活福祉部女性力・平和推進課
〒900-8570 沖縄県那覇市泉崎1-2-2 行政棟3階
電話番号：098-866-2500/FAX番号：098-866-2589

おわりに

本書をお手に取っていただき誠にありがとうございます。

1945年の太平洋戦争・沖縄戦の終結から78年が経過しました。

沖縄県では、先の大戦において、住民を巻き込んだ過酷な地上戦が繰り広げられ、多くの尊い命が失われ、豊かな自然とかけがえのない文化遺産が破壊されました。

このような体験をとおして、私たち沖縄県民は、命の尊さと平和の大切さを肌身で感じながら、世界の恒久平和の実現を強く求め続けています。

令和元年度から実施している「沖縄平和啓発プロモーション事業」は、一人ひとりが沖縄戦の実相や歴史的教訓を学び、平和の尊さを考える機会をつくることで、より多くの人々が平和への行動のきっかけをつくることを目的としております。

令和5年度は、これまでに蓄積された沖縄戦の体験談や資料を活用して、沖縄戦の実相や歴史的教訓を正しく次世代に継承し、平和を希求する「沖縄のこころ」を広く伝えるため、神奈川県川崎市でのシンポジウムや県内外で児童生徒等を対象としたワークショップ、平和教育指導者養成講座などを実施しました。

今後とも、平和を希求する「沖縄のこころ」が県内外、さらに世界中に伝わり、恒久平和の実現に寄与することを目指してまいりますので、引き続き、本県の平和行政の取組に対するご理解とご協力をよろしく申し上げます。

令和6年3月

**沖縄県子ども生活福祉部
女性力・平和推進課**

令和5年度
沖縄平和啓発プロモーション事業 御万人びーすふるアクション 事業報告書

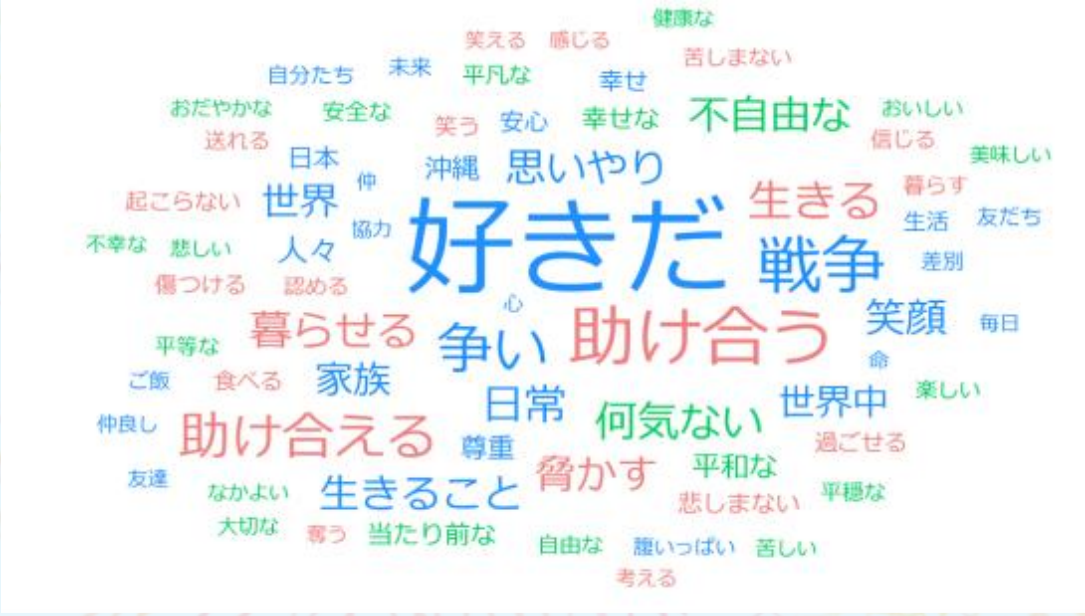
発行日：令和5（2023）年3月22日

企画・発行：沖縄県子ども生活福祉部 女性力・平和推進課
〒900-8570 沖縄県那覇市泉崎1-2-2 行政棟3階
TEL：098-866-2500／FAX：098-866-2589

実施運営：株式会社うなあ沖縄
事業責任者 玉城直美

報告書作成：株式会社うなあ沖縄
神山怜奈、黒島ゆりえ、長嶺晃太郎、玉城直美
〒904-2232 沖縄県うるま市川田402-1 2F
TEL.：050-3000-7492／FAX：050-3730-7940
<https://unaa-okinawa.com>





約1200人が出前授業を受け、授業の終わりに「OOは平和」
 どのようなことが平和かな？とコメントを書いてもらいました。
 単語の頻出語をAIテキストマイニングによって出された
 結果の図です。



令和5年度

沖縄平和啓発プロモーション事業 御万人ぴーすふるアクション

主管：沖縄県子ども生活福祉部 女性力・平和推進課
 受託：株式会社うなゐ沖縄